

ご利用案内

通常放映日時＝土・日・祝日

※平成27年12月28日(月)～平成28年1月4日(月) 年末年始休館

通常放映時間・内容(1月～3月)

11:00(幼児～小学生向け)	13:30(小～中学生向け)	15:00(高校生～大人向け)
<p>それいけ!アンパンマン ～星空をかえせ～</p> <p>プラネタリウム ちびまる子ちゃん 星にねがいを</p> <p>ほしのおはなし(星空解説)</p>	<p>フィールドオブヘブン</p> <p>プラネタリウム ちびまる子ちゃん 星にねがいを</p> <p>星空解説</p> <p>※1/9(土)「親子プラネタリウム」は別 内容となります。</p>	<p>神秘の光・オーロラ</p> <p>遙かなる銀河へ</p> <p>星空解説</p>

※ご希望による放映も行います。事前予約が必要となりますので、詳細はお問い合わせください。

観覧料

高校生以上(個人)	510円
高校生以上 (団体20名以上)	410円
中学生以下	無料

☆博物館パスポート1枚につき、
高校生以上1名無料

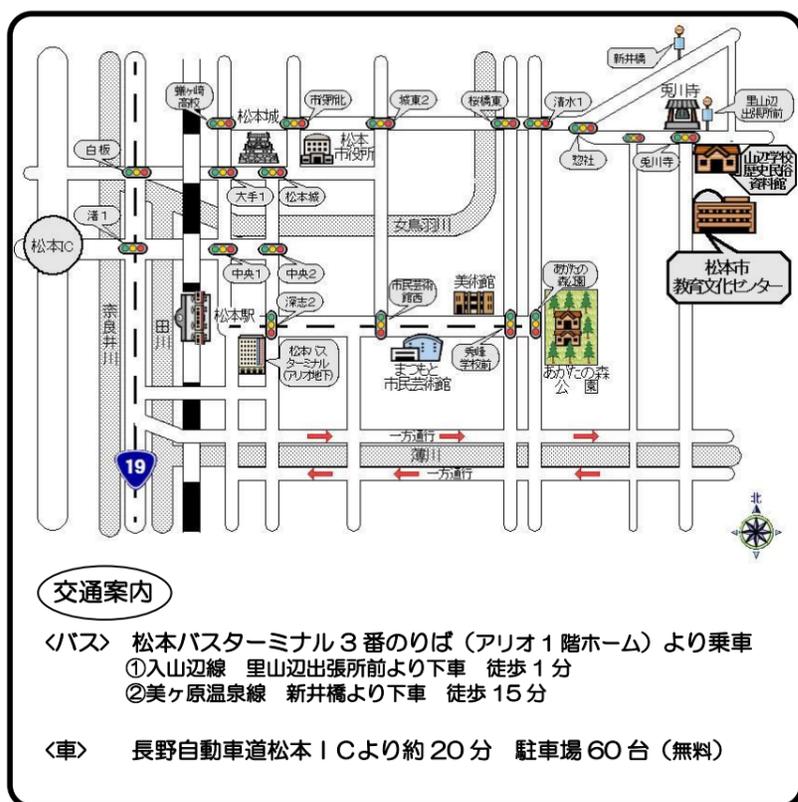
☆転入世帯優待券1枚につき、
1世帯家族無料

☆障害者手帳持参により、
本人とその介助者1名無料

☆市内在住70歳以上の方は無料

☆その他、各種イベント開催時には無料

アクセス



松本市教育文化センター

〒390-0221 松本市里山辺 2930-1

TEL:0263-32-7600 FAX:0263-32-7604

E-mail:kyoubun@city.matsumoto.nagano.jp

☆☆ 星空音楽館企画委員募集 ☆☆

当センターで行われる「星空音楽館」の企画委員を募集しています。

企画の参加、プラネタリウムで流す音源の選定、当日の受付などを行います。

興味のある方は是非ご連絡ください。

☆ 教育文化センター プラネタリウム通信 ☆

ほしみる

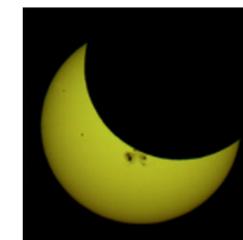
No.31 2015.12.23

2016年も星空とともに

2016年も多くの天文イベントが起こります。特に注目すべきは、全国的に見られる3月の部分日食、火星の最接近、ペルセウス座流星群などです。

2016年の主な天文情報

- 1～2月 カタリナ彗星が見頃(5～6等級)
- 1/4 しぶんぎ座流星群が極大(下弦の月の影響を受ける)
- 3/9 部分日食、木星がしし座で衝
- 5/31 火星が地球に最接近
- 5～6月 パンスターズ彗星が見頃(6～7等級)
- 6/3 土星がへびつかい座で衝
- 8/9 伝統的七夕(旧暦の七夕)
- 8/12 ペルセウス座流星群が極大(極大の時刻に月明かりがなく、条件は良い)
- 8/28 金星と木星が大接近
- 9/15 中秋の名月
- 11/14 スーパームーン(2016年最大の満月)
- 11/16 アルデバラン食(星食) ※アルデバランはおうし座の1等星
- 12/14 ふたご座流星群が極大(満月のため月明かりの影響を受け、条件は悪い)



主な天文用語

☆**食**→ある天体が別の天体によって隠される現象。

☆**部分日食**→太陽が月によって隠されることで、太陽が部分的に欠けて見える現象。

☆**星食**→惑星や恒星が月によって隠される現象。

☆**彗星**→氷やちりなどでできた小天体が、太陽に近づき温められることで、塵や水蒸気が放出し、長く尾が引いているように見えるもの。「ほうき星」とも呼ばれます。

☆**流星**→ちり～小石サイズの小天体が、地球の大気に衝突し、発光するもの。

☆**流星群**→毎年決まった時期に、空の決まった1点から流星が放射状に飛び出す現象。地球上からは、特定の星座から流星が飛び出すように見えるため、流星群ごとに星座の名前が付けられます。

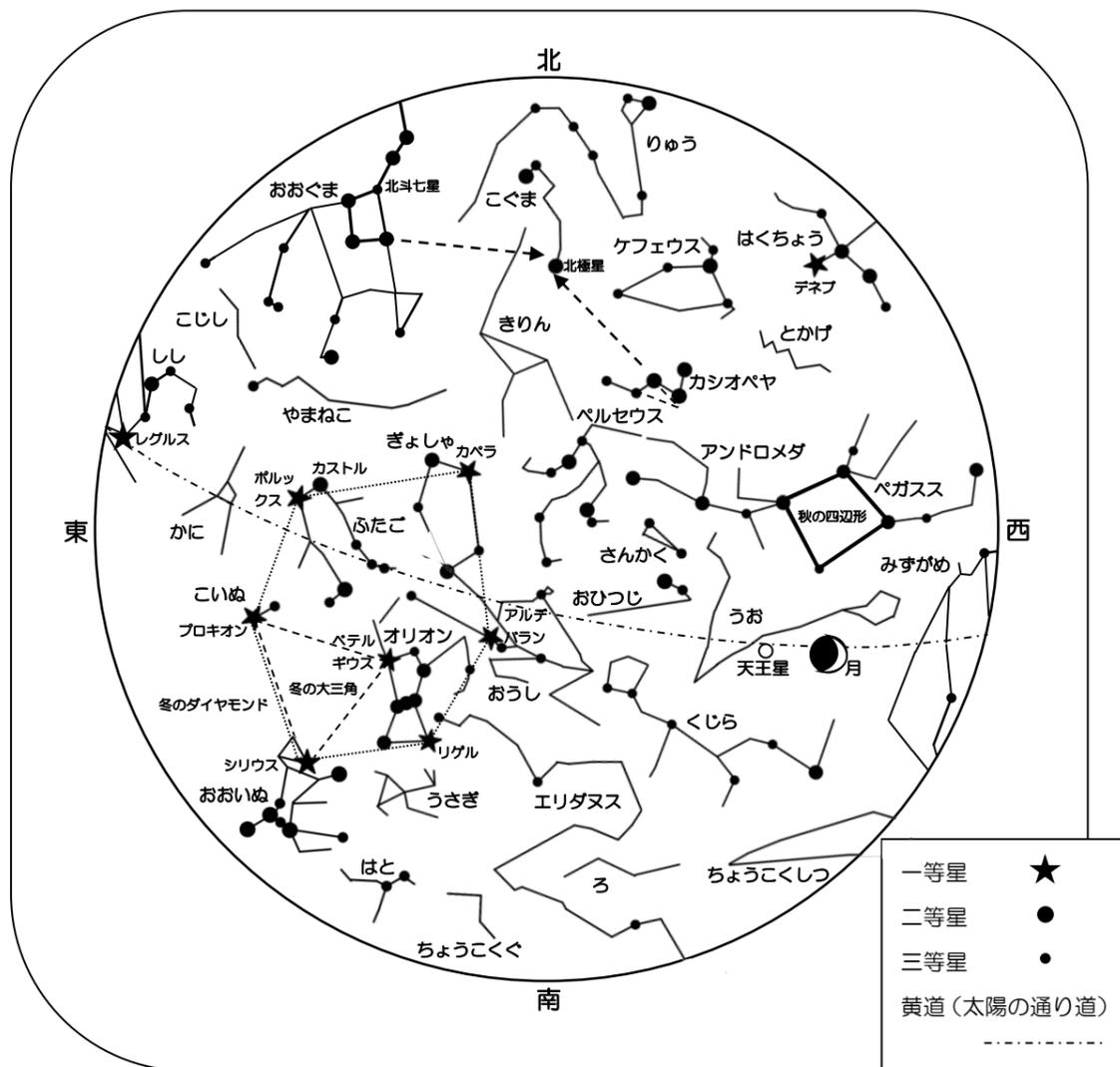
☆**極大**→天体の活動が最も活発になること。流星群の場合は、最も多く流星が現れる期間を指します。

☆**衝**→外惑星が地球を挟んで太陽と正反対の位置にあること。このとき惑星は一晩中観測でき、大きく明るく見えます。

☆**スーパームーン**→月が地球に最も近づいた時に満月、もしくは新月を迎えること。地球上からは、この時見る月が最も大きい月となります。

季節の星空

1月15日20時頃の松本の星空



1月の主な天文情報

- 1(金) 初日の出、月が木星の南を通過
カタリナ彗星がアークトゥルス(うしかい座の1等星)に接近
- 4(月) しぶんぎ座流星群が極大(出現期間 1/1~1/7)、月と火星が接近
- 7(木) 細い月と金星、土星が接近
- 9(土) 金星と土星が大接近
- 10(日) 新月
- 17(日) カタリナ彗星が地球に最接近
- 24(日) 満月

★
極大→天体の活動が最も活発になること。流星群の場合は、最も多く流星が現れる期間を指します。

★
しぶんぎ座→18世紀にフランスの天文学者ララントによって作られましたが、1928年に88星座が定められた時に廃止され、現在はりゅう座の一部となっています。天体観測機器の「四分儀」に由来します。

☆ ☆ ☆ プラネタリウム事業案内 ☆ ☆ ☆

- 1/9(土) ☆親子プラネタリウム 13:30~
親子連れの方を中心に楽しめるよう、番組の無料投映を行います。今回のテーマは「小惑星」です。申し込み不要。当日先着 90 人。
- 2/6(土) ☆星空散歩・星の観望会 18:30~20:00
天体望遠鏡を使って、季節の天文現象を観測します。(天候不順で観測ができない場合はプラネタリウムをご覧くださいませ。)
受付開始:1/30(土) 8:30 より
定員:40 人(小学生以上。高校 3 年生以下は保護者同伴)

※事前申し込みが必要な事業についての受付は、電話受付のみとさせていただきます。

あかつきをのぞむ

2010年12月7日、金星探査機あかつきが種子島から打ち上げられました。あかつきは、金星の気象調査を目的とした人工衛星です。金星は、大きさや密度、太陽からの距離が地球に近いことから、地球の兄弟星と呼ばれています。しかし、二酸化炭素を含む高温の大気や濃硫酸の雲、秒速 100m にも及ぶ「スーパーローテーション」と呼ばれる高速風など、地球とは全く異なる環境をしています。あかつきは、これらを始めた気象現象の原因を解明するために打ち上げられました。しかし、打ち上げからまもなく、金星の周回軌道への投入に失敗し、太陽の周りを約 5 年間回り続けました。2015年12月7日に金星軌道への再投入を試み、9日に成功が確認されました。

「あかつき(暁)」とは、太陽が上る前のほの暗い頃、夜明けを指します。金星が美しく見える時間帯でもあり、東の空に明けの明星として輝く金星に到着するあかつきの姿と、新たな取り組みへの実現を目指すイメージとが重なることから名付けられたそうです。元旦の暁に、その年最初の太陽が上ることを「初日の出」といいます。日本では古からの風習で、初日の出を拝むとともに 1 年の願いや決意を祈ります。どちらの「あかつき」にも、人間の強い祈りや前向きな気持ちが込められています。

2016年松本の初日の出は6時59分に迎えますが、四方を山で囲まれているため、地域によってはやや遅れて現れるかもしれません。ちょうど初日の出を待つ頃に気温が最も冷え込むので、暖かい格好をして風邪をひかないようお気を付けください。

